

報告者：久木留 毅（文学部教授）

■ラフバラ大学研究拠点活動報告 No.4

4月23日(火)

■ IOC World Conference Sport For All

参加／ペルー・リマ



馳衆議院議員、東京招致スタッフおよび現地日本人学校教員と夕食。JSC 河野理事長、JSC スタッフ合流、福井文部科学副大臣ご挨拶。

翌24日(水)に Sport For All 初日を迎える。エントリーは約400名。プログラムは以下 URL を参考

<http://www.sportforall2013.org/en/events/ioc-sport-all-grant-session>



4月26日(金)

■ Sports facilities and public spaces

Architecture for Humanity CEO Cameron Sinclair の話は、スポーツの場(クラブハウスとグラウンド)が街



の導線を変える可能性と地域に及ぼす影響について示唆に飛んだ内容であった。さらに、2011年3月11日起きた東日本大震災下の石巻への支援も実施していることから共感できる内容であった。

4月27日(土)

■Partnerships

ペルー体育庁のボザ長官が司会進行。カナダ、アメリカのNGOによる活動報告。カナダの報告では、テレビ局(CBC)とのコラボレーションにより一度破綻した活動が復活した点が紹介された。ファンディング先をしっかりと確保することがNGOの成功には欠かせないことが、他の報告とともに良く理解できた。

サム・ラムサミー委員長(南アフリカ)のクロージングにより、会議終了。



報告者：久木留 毅（文学部教授）

■カンファレンス総括

昨年につき2度目のIOCカンファレンスへの参加であった。カンファレンスの流れと、来ているIOC委員およびスタッフの行動等が少しずつ理解できた。また、ロビー活動の重要性とネットワークの構築方法等について戦略が必要と感じた。

カンファレンスにおいては、諸外国におけるスポーツNGOの情報収集が必須と感じた。

